胃低分化充実型腺癌における
肝様分化に関与する因子と悪性度との関連

【はじめに】

胃肝様腺癌は胃癌の特殊型で肝細胞癌に類似した組織形態（肝様構造）をとる悪性腫瘍で、悪性度が高いとされています（図1、図3）。また胃肝様腺癌は低分化充実型腺癌の一部に肝様構造を有するものと考えられています（図2、図3）。肝細胞癌のマーカーとしてα fetoprotein(AFP)、Heppar1、Glypican3が知られており、胃肝様腺癌で特異的に発現するマーカーとしてPLUNC、Sal-like protein 4(SALL4)が報告されています。これまで胃低分化充実型腺癌における上記のマーカー発現と予後に関する報告はなく、胃癌の悪性化や浸潤に関連する蛋白の解析は、悪性度や予後の予測、新たな治療法の確立などにつながることが期待されています。

【対象】

1979年1月6日から2013年3月31日までに当院形態機能病理学教室において胃癌のうち肝様腺癌、低分化充実型腺癌と診断された方92症例の組織標本を対象に研究を行います。対象者になることを希望されない場合は、下記連絡先まで連絡をお願いいたします。

【研究内容】

九州大学形態機能病理学教室において診断された胃癌の標本を使って、高い発現を示す蛋白の検索を行います。

この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担は生じていません。

【患者さんの個人情報の保護について】

本研究では個人情報漏洩を防ぐため、氏名、カルテ番号などの個人を特定できる情報を削除し、匿名化した上で、データの数字化などの厳格な対策を取っています。本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

【研究期間】

承認日から2014年 3月31日まで

【医学上の貢献】

胃肝様腺癌を含む低分化充実型腺癌における蛋白発現の有無と臨床病理学的因子や予後を解析することにより、胃肝様腺癌の病理学的診断の精度向上、予後を予測する因子の解明、また胃肝様腺癌の早期発見や治療の確立につながる可能性がある、など医学上の貢献はあるものと考えます。

【研究機関】

九州大学大学院　形態機能病理　教授　小田　義直
准教授　相島　慎一
大学院生　長田　美佳子
九州大学大学院　臨床腫瘍外科　教授　田中　雅夫
九州大学大学院　消化器総合外科　教授　前原　喜彦

連絡先：〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1
Tel 092-642-6063　担当：長田　美佳子

図1.肝様腺癌（肉眼像）

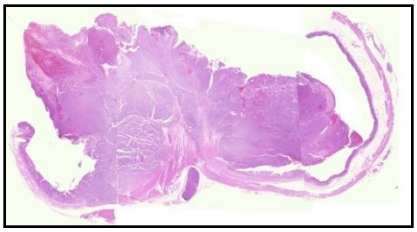

図2.肝様腺癌（ルーペ像）

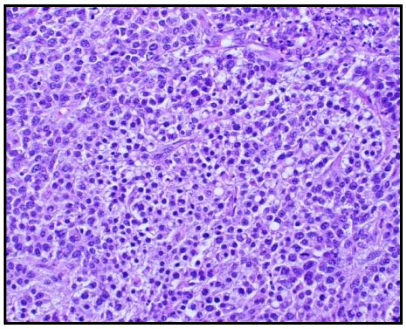

図3. 肝様腺癌（組織像）